

株主・投資家の皆様へ

LINTEC

WAVE

リンテックウェーブ

*Linking
your
dreams*

SEPTEMBER 2020

80

● 株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長
社長執行役員 **服部 真**

● スペシャルレポート

リンテックの
コーポレートガバナンス

第127期
(2021年3月期)
第1四半期
決算情報

証券コード：7966

LINTEC WAVE 80

SEPTEMBER 2020



表紙：風わたる

はり絵画家・内田正泰氏は、独自の技法で色紙をちぎって貼り重ね、日本の美しい自然を彩り豊かに表現。四季折々の風や空気、音や薫りを感じさせ、誰もが抱く「心の原風景」を思い起こさせてくれます。

目次

2 連結業績推移

3 株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長 服部 真
社長執行役員

4 スペシャルレポート

リンテックの
コーポレートガバナンス

8 トピックス

9 新聞広告シリーズ

10 決算情報

12 セグメント情報

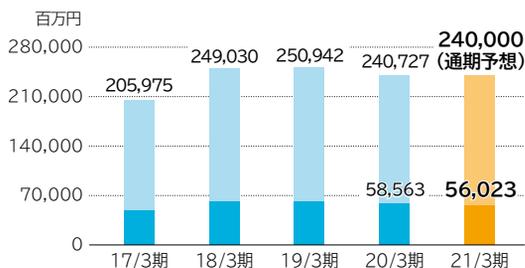
15 株式情報

(免責事項)

業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

連結業績推移

売上高



営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



▶ 2021年3月期第1四半期連結累計期間(前年同期比)

売上高

56,023 百万円 (4.3%減)

営業利益

3,545 百万円 (16.9%増)

経常利益

3,478 百万円 (24.4%増)

親会社株主に帰属する四半期純利益

2,421 百万円 (29.1%増)

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの2021年3月期第1四半期連結累計期間の業績は、半導体・電子部品関連製品が好調な需要に支えられ順調に推移しましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響によって他の製品は総じて需要が低迷したこともあり、売上高は減少しました。一方、利益面については、半導体・電子部品関連製品の増収効果や原燃料価格の下落などにより増益となりました。

今期の業績予想につきましては、今年5月の発表時点では第3四半期以降に正常な事業活動に向かうことを前提として、右記のとおりとしました。しかし、いまだに感染拡大の収束時期は見えておらず、影響が



代表取締役社長
社長執行役員 **服部 真**
はっとり まこと

さらに長期化して業績予想の修正が必要となった場合には速やかに開示いたします。

来期には、10年先を見据えた長期ビジョンに基づく新中期経営計画のスタートが控えています。従業員の感染防止対策を取りながら、引き続き全社一丸となってさらなる拡販やコスト削減などに努め、次なる成長への足掛かりを築いてまいります。

株主・投資家の皆様には、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

▶ 2021年3月期 連結業績予想(前年同期比)

売上高	2,400億円 (0.3%減)
営業利益	150億円 (2.9%減)
経常利益	150億円 (3.6%増)
親会社株主に帰属する 当期純利益	110億円 (14.3%増)

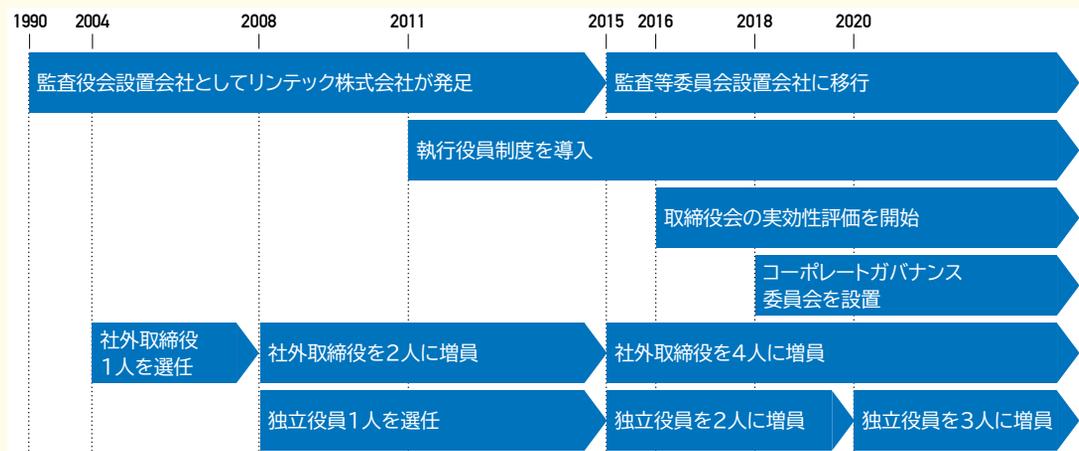
リンテックの コーポレートガバナンス

企業不祥事の防止や健全な経営に不可欠な要素として、各企業にはコーポレートガバナンス(企業統治)の強化が求められています。当社グループでもさらなる経営の透明性の向上や迅速な意思決定、効率的な業務執行を図るため、これまでにさまざまな取り組みを行ってきました。今号では、当社のガバナンス強化の歴史と現在のガバナンス体制についてご紹介します。

ガバナンス強化の歴史

1990年に3社が合併して誕生した当社では、「監査役会設置会社」として監査役が取締役の職務執行の監査を行ってきました。その後、2015年に「監査等委員会設置会社」に移行。取締役会での議決権を持つ監査等委員である取締役を置くことで、取締役会の監督機能を強化しました。

2018年には、役員の報酬および選解任について取締役会へ助言・提言を行う「コーポレートガバナンス委員会」を設置。そして、今年6月に開催した株主総会での承認を受けて、取締役の人数を削減すると同時に独立役員を増員し、経営の効率化とさらなるガバナンス体制の充実を図りました。



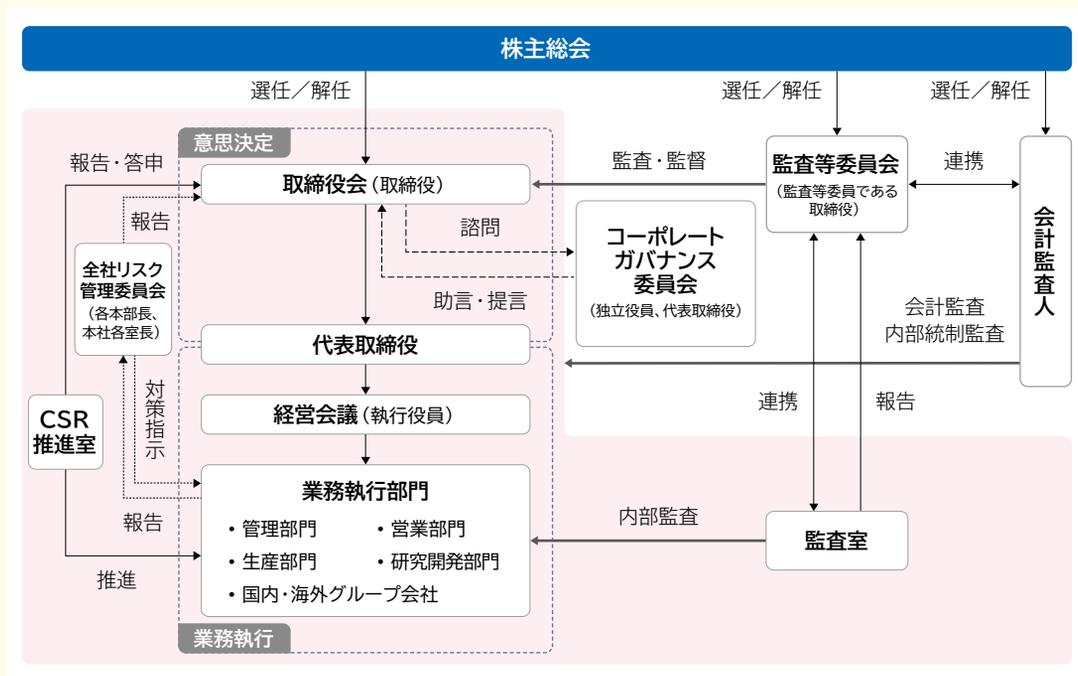
コーポレートガバナンス体制

「監査等委員会設置会社」である当社は、株主総会で選解任される取締役と監査等委員、そして会計監査人を中心としたガバナンス体制を構築しています。取締役会は経営に関する重要な意思決定を行うために毎月1回開催しているほか、必要に応じて臨時に開催し、迅速な意思決定に努めています。また、業務の執行を担う執行役員を中心とした経営会議も毎月1回開催し、各部門間の情報共有を通じて業務執行の効率化を図っています。

一方、監査等委員会は毎月1回開催し、当社の内部監査部門である監査室や会計監査人から必要な報告を受けるとともに、

両者との意見交換などを通じて、取締役の職務執行の監査を行っています。また、各監査等委員は経営会議にも出席して監査に必要な情報を入手したうえで取締役会に臨み、意見の陳述や決議への参加を通じて、取締役の職務執行の監督を行っています。

当社の会計監査人は EY 新日本有限責任監査法人が務めており、「会計監査人の評価および選定基準」に基づき、監査等委員会が会計監査人の独立性、内部統制体制、監査計画、監査の方法と結果、その職務の遂行状況などを毎期評価しています。



取締役会の構成と実効性評価

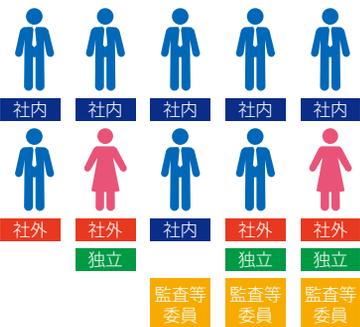
今年6月に発足した新体制では、それまで14人いた取締役を10人に減員し、経営の意思決定と業務遂行の分離を推進しました。同時に独立役員を2人から3人としたことで独立役員比率が高まり、取締役会の監督機能が強化されたほか、女性役員比率も上昇し、多様性の面からも改善が図られました。

取締役の指名については取締役選任基準内規に則り、社内取締役については豊かな業務経験や優れた経営感覚、企業経営のための指導力・統率力・行動力・企画力などを判断基準とし、社外取締役については企業経営、法務、財務・会計、

人事・労務などの専門分野における豊富な知見や経験などを判断基準としています。当社では大学教授や弁護士、異業種の経営者といった幅広い分野の人材を登用し、第三者の視点を経営に積極的に取り入れることで取締役会のさらなる活性化を目指しています。

また2016年から、取締役会の課題を調査・分析し、その機能をより高めていくため、取締役会の実効性評価を実施しています。一連の実施プロセスは独立役員による評価を受けており、より実効性のある取締役会の運営に向けて、毎年改善が図られています。

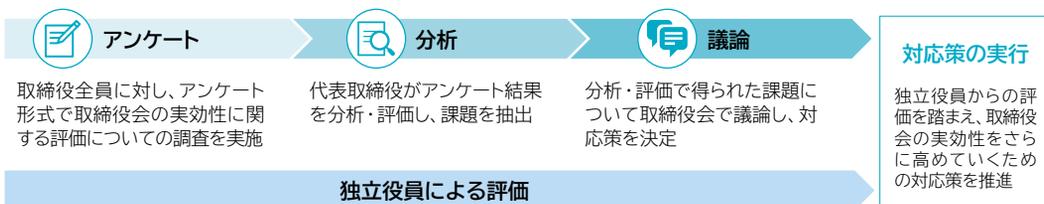
取締役会の構成



役員構成の変化 (2020年6月22日開催の株主総会前後の比較)

取締役の人数	14人	➔	10人
社外取締役の比率	28.6% (4人/14人)	➔	40.0% (4人/10人)
独立役員の比率	14.3% (2人/14人)	➔	30.0% (3人/10人)
女性役員の比率	7.1% (1人/14人)	➔	20.0% (2人/10人)

取締役会実効性評価の実施プロセス



新任独立役員メッセージ

マーケット分析の知見を生かし、企業価値向上に貢献していきます



取締役(社外)

奥島 晶子(おくしま あきこ)

1981年に日本アイ・ビー・エム株式会社入社。その後、外資系IT企業などでデータを活用したマーケティングやコンサルティング業務に携わる。2001年にジェイビートゥビー株式会社を設立し、代表取締役社長に就任(現任)。今年6月に当社社外取締役に就任。

私は「業務改革のためのシステム化」を自身のキャリアの核として、データを徹底して活用することをライフワークにしています。約20年前に設立した現在の会社では、これまで数多くの企業のマーケティング活動をお手伝いしてきました。具体的には「いつ、誰が、何を、幾つ、いくらで購入したか」といった消費者の購買動向を示す「ID-POS」^{アイディー・ポズ}データを分析し、そこからどんな変化が起きているか仮説を立て、さまざまなメーカーや小売業者向けにマーケティング戦略のアドバイスをを行っています。

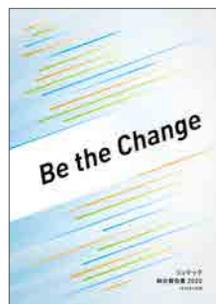
現在、新型コロナウイルスの感染拡大により、市場環境や消費者のニーズは刻々と変化し続けています。そうした環境の変化をいち早く的確に把握することが求められており、このようなマーケット分析の側面からもリントックの企業価値向上に貢献していきたいと考えています。

お知らせ

「統合報告書2020」を発行

このたび、投資家向けの年次報告書である「統合報告書2020」を発行しました。2020年3月期の決算情報をはじめ、独立役員のメッセージや経営層および各事業部門トップのメッセージ、そしてESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組みなど幅広い情報を掲載しておりますので、ぜひ御覧ください。

※当報告書は当社ホームページの株主・投資家情報サイトから御覧いただけます。
www.lintec.co.jp/ir/library/annual



フィルム代替素材を使用した“脱プラ”ラベル素材を発売

当社ではフィルムの代わりに耐水性のある紙を表面基材に使用したラベル素材を開発し、「PLALESS」シリーズとして7月から販売を開始しました。クリーニングタグなどに使われている当社耐洗紙の製造技術を応用することで、優れた耐水強度を実現。耐水性との両立が難しかった印刷適性も付与しています。植物由来原料を利活用したバイオマス粘着剤を使用したタイプと、製造工程で有機溶剤を必要としないエマルジョン粘着剤を使用したタイプをラインアップ。昨今、高まりつつある脱プラスチック需要に応えるラベル素材として、各種商品の表示ラベルや商品を店頭で目立たせるために貼られるアイキャッチラベル用途を中心に拡販に努めていきます。



商品の表示ラベルやアイキャッチラベル用途に



優れた耐水性を発揮

板橋区の新型コロナウイルス感染拡大防止に貢献

新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けて、本社のある東京・板橋区でさまざまな支援活動を行いました。当社の子会社であるプリンテック(株)と共に、人との距離を保つように呼びかけるフロアマーキングを製作。区役所本庁舎や店舗の床面などに施工し、ソーシャルディスタンスの確保に寄与しています。また、食事のテイクアウトができることを知らせるためのステッカーも提供し、コロナ禍で集客に苦心している区内の飲食店でご活用いただきました。さらに、医療機関で一部の医療物資の調達が困難になっていることを受け、当社の技術を応用して取引先の協力を得ながら製作したフェイスシールド1万個も寄贈。医療従事者の方々の負担軽減につなげていただいています。



滑りにくさなどの安全性に配慮したフロアマーキング



飲食店向けに提供したステッカー

リンテックの エコひいき

小さなことから一つずつ
リンテックの環境配慮

「リンテックのエコひいき」をテーマに、皆様の身の回りで活躍する当社のさまざまなエコロジー製品や、環境配慮への取り組みを影絵風のビジュアルを使って表現した新聞広告シリーズです。

【掲載紙】

日本経済新聞、讀賣新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、北海道新聞、中日新聞、中国新聞、西日本新聞、上毛新聞、神戸新聞、愛媛新聞、日刊工業新聞、化学工業日報



7月 July 掲載広告

地球温暖化防止の観点から、省エネルギーの推進は時代のニーズといえます。そこで当社が提案するのが、窓ガラスに貼るだけで日射熱をカットできるフィルム。窓からの景観を保ちながら冷房効率を高めて、省電力やCO₂排出量の削減に貢献します。



8月 August 掲載広告

当社ではクリーニングタグに使われる耐洗紙の製造技術を応用し、優れた耐水強度を持つ紙ラベル素材を開発しました。耐水性との両立が難しかった印刷適性も付与することで、プラスチック代替素材として提案を進め、脱プラ需要にお応えしていきます。



9月 September 掲載広告

環境配慮ニーズの高まりを受け、当社ではトウモロコシ由来のバイオマス原料を使ったラベル用保護フィルムを発売。このほかにも、バイオマス粘着剤を採用したラベル素材の展開にも注力しており、石油資源の使用量削減に努めています。

詳しくはwebサイトに掲載中!

DREAM FACTORY

www.lintec.co.jp/dream/ad

四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)	当第1四半期 連結会計期間	前連結 会計年度
流動資産	160,384	163,660
固定資産	113,803	115,311
① 資産合計	274,188	278,972
流動負債	64,302	66,119
固定負債	19,803	20,554
② 負債合計	84,106	86,674
③ 純資産合計	190,082	192,298
負債純資産合計	274,188	278,972

四半期連結損益計算書及び 四半期連結包括利益計算書(要約)

(単位：百万円)	当第1四半期 連結累計期間	前第1四半期 連結累計期間
④ 売上高	56,023	58,563
売上総利益	13,911	13,855
販売費及び 一般管理費	10,366	10,821
⑤ 営業利益	3,545	3,033
経常利益	3,478	2,795
税金等調整前 四半期純利益	3,478	2,795
⑥ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,421	1,875
四半期包括利益	555	2,227

ポイント!

① 資産合計

現金及び預金、受取手形及び売掛金、のれんが減少したことなどにより、総資産は47億83百万円減少しました。

② 負債合計

1年内返済予定の長期借入金、未払法人税等が減少したことなどにより、負債は25億67百万円減少しました。

③ 純資産合計

為替換算調整勘定が減少したことなどにより、純資産は22億16百万円減少しました。

④ 売上高

アドバンストマテリアルズ事業部門は増加しましたが、そのほかの事業部門が新型コロナウイルス感染症の拡大による需要低迷を受けて減少したことなどにより、売上高は25億40百万円減少しました。

⑤ 営業利益

アドバンストマテリアルズ事業部門の増収や主要原材料であるパルプ価格の下落などにより、営業利益は5億11百万円増加しました。

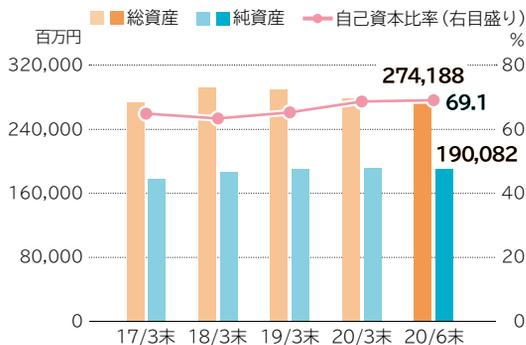
⑥ 親会社株主に帰属する 四半期純利益

営業利益の増加などにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億46百万円増加しました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円)	当第1四半期 連結累計期間	前第1四半期 連結累計期間
営業活動による キャッシュ・フロー	6,335	2,271
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,404	△2,435
財務活動による キャッシュ・フロー	△4,466	△4,319
現金及び現金同等物の 四半期末残高	50,945	53,858

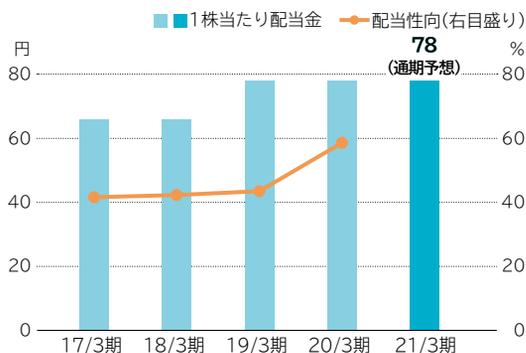
総資産・純資産・自己資本比率



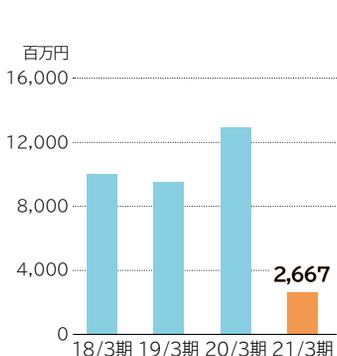
1株当たり四半期(当期)純利益



1株当たり配当金・配当性向



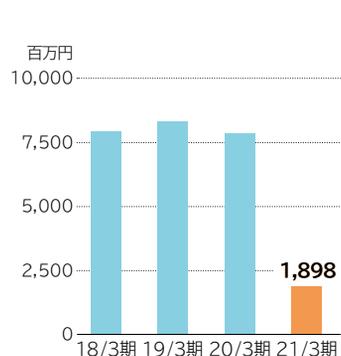
設備投資額



減価償却費 のれん償却額



研究開発費



印刷材・産業工材関連

売上高 **282億23**百万円 (5.9%減)

営業利益 **△3億81**百万円 (ー)



当セグメントの事業部門別の売り上げの概況は次のとおりです。

印刷・情報材事業部門 売上高 **210億38**百万円 (3.8%減)

主要製品

- シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム
- バーコードラベル用粘着紙・粘着フィルム

シール・ラベル用粘着製品は、国内では食品や医療・医薬関連の需要は堅調だったものの、自動車や家電、化粧品関連などのラベル需要が低調に推移しました。海外では米国が堅調だったものの、中国やアセアン地域において低調に推移しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ減少しました。



産業工材事業部門 売上高 **71億85**百万円 (11.6%減)

主要製品

- 自動車用粘着製品
- 工業用粘着テープ
- ラベリングマシン
- ウィンドーフィルム
- 内装用化粧フィルム
- 屋外看板・広告用フィルム

自動車の生産台数減少の影響などにより、二輪を含む自動車用粘着製品やウィンドーフィルムが大幅に減少したほか、各種イベントの中止などに伴い装飾関連フィルムの需要が低調に推移しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ減少しました。



※ セグメント別の営業利益は、セグメント間取引消去前の数値に基づいています。

※ ()内は前年同期比

電子・光学関連

売上高 **203億 3百万円** (5.4%増)

営業利益 **32億 26百万円** (58.1%増)



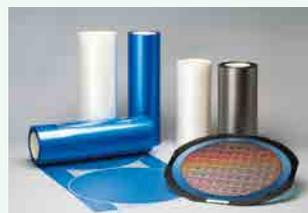
当セグメントの事業部門別の売り上げの概況は次のとおりです。

アドバンスマテリアルズ事業部門 売上高 **126億2百万円** (23.2%増)

主要製品

- 半導体関連粘着テープ
- 半導体関連装置
- 積層セラミックコンデンサ関連テープ

5G関連やテレワークによるパソコンなどの需要増加により、半導体関連粘着テープおよび関連装置、積層セラミックコンデンサ関連テープともに好調に推移しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ増加しました。



オプティカル材事業部門 売上高 **77億円** (14.8%減)

主要製品

- 偏光・位相差フィルム／粘着加工
- 偏光フィルム／表面加工

光学ディスプレイ関連粘着製品は、大型テレビ用およびスマートフォン用などの中小型向けともに需要低迷の影響を受けて低調に推移しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ減少しました。



洋紙・加工材関連

売上高 **74億95百万円** (19.3%減)

営業利益 **6億70百万円** (13.3%減)

売上高



営業利益



当セグメントの事業部門別の売り上げの概況は次のとおりです。

洋紙事業部門 売上高 **37億40百万円** (12.0%減)

主要製品

- カラー封筒用紙
- 色画用紙
- 特殊機能紙
- 高級印刷用紙
- 高級紙製品用紙

封筒用紙はテレワークによる需要低迷、色画用紙は休園・休校による影響を受けて低調に推移しました。また、ファストフードやテーマパーク向けの耐油耐水紙も低調に推移しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ減少しました。



加工材事業部門 売上高 **37億54百万円** (25.5%減)

主要製品

- 粘着製品用剥離紙
- 光学関連製品用剥離フィルム
- 合成皮革用工程紙
- 炭素繊維複合材料用工程紙

炭素繊維複合材料用工程紙は航空機用などが需要低迷の影響を受けて低調に推移しました。また、合成皮革用工程紙も自動車関連の需要低迷などにより低調に推移しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ減少しました。



売上高構成



営業利益構成



株式情報 (2020年6月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式の総数 (ただし自己株式4,338,674株を除く)	72,282,066株
単元株式数	100株
株主数	6,084人

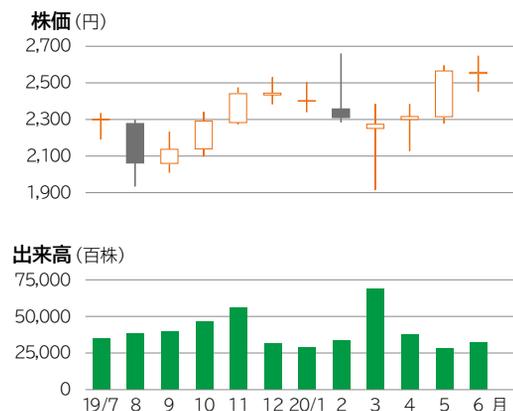
大株主の状況 (上位10人)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本製紙株式会社	21,737	30.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,363	6.03
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,817	5.28
全国共済農業協同組合連合会	2,625	3.63
庄司 たみ江	1,796	2.48
塩飽 恵以子	1,543	2.13
株式会社かんぼ生命保険	1,480	2.04
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,091	1.50
リンテック従業員持株会	1,040	1.43
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	978	1.35

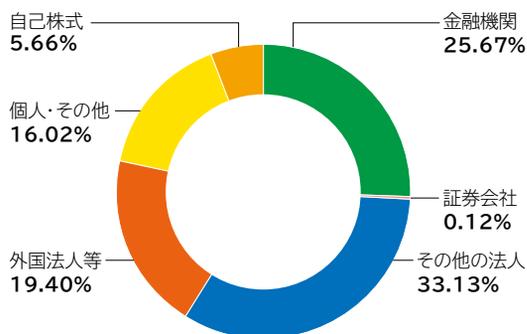
注1. 当社は自己株式4,338,674株を保有しておりますが、上記表からは除外しております。

注2. 持株比率の算定に当たっては、自己株式を控除して計算しております。

株価および出来高の推移 (2019年7月～2020年6月)



所有者別分布比率



会社概要 (2020年6月30日現在)

社名	リンテック株式会社 (英文: LINTEC Corporation)
本社	東京都板橋区本町23-23
設立	1934年10月15日
資本金	232億7,246万5,161円
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
従業員数	連結: 4,948人 単体: 2,584人 (2020年3月31日現在)
事業所	営業拠点: 東京、札幌、名古屋、大阪、福岡など全国11か所 生産拠点: 吾妻(群馬県)、熊谷・伊奈(埼玉県)、千葉(千葉県)、 龍野・新宮(兵庫県)、小松島(徳島県)、三島・土居・新居浜(愛媛県) 研究拠点: 蕨・さいたま(埼玉県)
連結子会社	国内: 3社 海外: 38社

株主メモ

定時株主総会	6月
配当基準日	期末: 3月31日 中間: 9月30日
法定公告掲載 ホームページアドレス	www.lintec.co.jp/koukoku
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社
・郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
・フリーダイヤル	☎ 0120-232-711
・ホームページアドレス	www.tr.mufg.jp/daikou

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。



● 本社 〒173-0001 東京都板橋区本町23-23
URL www.lintec.co.jp

発行 広報・IR室 2020年9月
TEL. (03) 5248-7741
FAX. (03) 5248-7754

社名の由来は、リンケージ(結合)とテクノロジー(技術)。ロゴマークは、地球を表す楕円にLINTEC・LINKAGE(結合)・LOYALTY(誠実)の三つの「L」で表現したウエーブ(波)を組み合わせでデザイン。世界を舞台に飛躍していこうという決意を込めています。

ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

IRメール配信サービスのお知らせ



当社では新製品情報なども含め、株主・投資家の皆様へさまざまなニュースを幅広くお届けするため、IRメール配信サービスをご提供しています。配信をご希望の方は、下記の当社IR情報サイトよりご登録をお願いいたします。

www.lintec.co.jp/ir



※スマートフォンなどで上記の二次元コードを読み取ると、登録ページへ簡単にアクセスできます。